

事例研究報告

特別支援学校高等部生徒に対する
一人で仕事に取り組むことができる
ための支援について

生徒の実態

発語・・・あり。口頭での指示は、ほぼ理解できる。
スケジュールの変更は直前でも受け入れられる。

指示・・・短い活動であれば、指示通り最後までできる。
集中が途切れたり自由な時間ができたりすると場面や状況に関係なく大きな声で不適切な発言をする。

● **したいこと** →表現できるが強くは要望しない。

- ・ iPadで動画を見たい時には「先生iPadしてもいいですか」と要求する。
- ・ 活動の際には選択肢を提示すると選ぶことができる。

● **したくないこと**

- ・ すぐには拒否しないが、気持ちが向いていないため、
「○○好き～？」等、その場にふさわしくない内容をしゃべり始める。

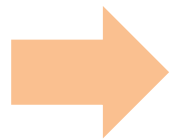
教員からの言葉かけ

- ・言葉を選んで答えることができる。
- ・分からない場合は「わかりません」と答える。

自分から他の人に話しかける内容は

- 「〇〇さん春巻き好き～？」 「生八つ橋好き～？」
- 「よそのうちに入ったらあかん？」
- 「〇〇先生〇〇先生…（先生の名前の連呼）」等

その時と場に合っていないものがほとんど



なぜ、このような行動をとるのか？

- ・他の方法でコミュニケーションをとることが難しい？
- ・周りの反応を楽しむためにしている？

保護者の願い

外出中に、誰にでも不適切な言葉で話しかけたり、大きな声で質問し続けたりするのをやめてほしい。

教員の願い

場面や状況に応じたコミュニケーション能力を身につけ、これまでの不適切な発言による誤ったコミュニケーションの仕方を改善したい。



卒業後の社会的自立を目指し、よりよいコミュニケーション能力を身につけてほしい。



将来、不適切な発言をせず一人で仕事ができるように！

高等部卒業後に向けて、不適切な発言ではなく、

「適切なコミュニケーションができるようになっただほしい。」

そして、

「不適切な発言をせず一人で仕事に取り組むことができるようになっただほしい。」

と考え、事例研究に取り組むことにした。

アドバイザーからの助言

- 記録を見ると不適切な発言は注目獲得ではなく自己刺激かもしれない（無反応でも効果がない）。
- 言葉を言うこと自体が楽しいかもしれない。
- 初対面の人に話をした時は（ファーストコンタクトでは）会話が成立していたかもしれない（初めて言った時の相手の反応を思い出して）。
- CMのフレーズみたいなものかもしれない。
- 自分でコントロールできる力をもっている。

助言を受けての見直し

- 場面や状況に応じない不適切な発言をした際に，周りの生徒や教員が反応しなくても発言の回数が減っていないことから，他の方法で指導する必要がある。



- 1時間目 「日常生活の指導」の時間にベースラインをとる（9月から「日常生活の指導」の時間における不適切な発言を記録し，ベースラインをもとに指導開始）。



- トークンエコノミーシステムを取り入れ，目標を立てて取り組むようにする。その際，ご褒美内容を本人と一緒に考えることで意欲を高め，より約束を意識しながら活動できるようにする。

指導の手続き

《指導場面Ⅰ》

<STEPⅠ>

1. ルールを決める → 「日常生活の指導の時間の約束」を○×で表を作る。

○ 不適切な発言をせずに活動に取り組む。

× (友だち, 友だちのかぞく, 先生の名前, 生八つ橋, しゅうまいなど)

2. ルールを提示しておく 「日常生活の指導」の時間に1の約束を守って
(1. 連絡帳, 2. 黒板拭き, 3. 牛乳パック捨て, 4. 階段昇降)ができたかどうかチェックする。

→机上に約束表を置いておく。約束が守れたらご褒美が得られる。

3. チェック表に記入する 約束が守れたかどうか分かるようチェック表に記入する。

4. 記録をする ・約束を守れた場合は○, 守れなかった場合は×とし,
4つの項目中3つ以上○ならば5分休憩 → (ご褒美)
// ×ならば続けて作業
→ (その後, 約束を守って作業ができればご褒美獲得)

達成基準

不適切な発言0回で、ルールを守り、活動に取り組むことが3日連続できれば、目標達成とする。 ※達成基準は全ての指導で同じ

<STEP 2>

「1. 連絡帳, 2. 黒板拭き, 3. 牛乳パック捨て, 4. 階段昇降」等1~2, 3~4の2つの活動を続けて実施し, 2が終わった時点と4が終わった時点でチェック項目を確認し, それぞれ○が7個以上ならご褒美が得られる。

<STEP 3>

「1. 連絡帳, 2. 黒板拭き, 3. 牛乳パック捨て, 4. 階段昇降」を全て終わらせた後でチェックをし, ○が14個以上ならご褒美が得られる。

般化場面 「家庭」 20分間約束を守って縫い物をする事ができれば, ご褒美 (iPad 3分券) が得られる。

<STEP 4>上記の1~4の活動に「流し台洗い」を加え, 5つの活動で指導

「1. 連絡帳, 2. 黒板拭き, 3. 牛乳パック捨て, 4. 流し台洗い, 4. 階段昇降」にもう1つ活動 (流し台洗い) を増やし, 5つの活動で実施する。

《指導場面2》

作業A…約束を守って40分作業できれば, 昼休みにiPad 2分延長券ゲット

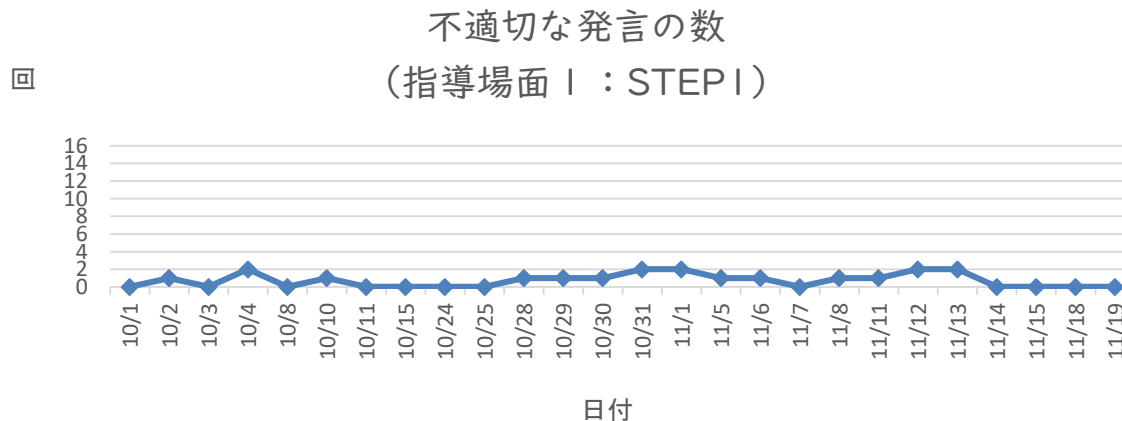
作業B…約束を守って40分作業できれば, 昼休みにiPad 2分延長券ゲット

記録方法と記録

1. 「日常生活の指導」の時間に不適切な発言の回数をチェックし、ベースラインをとる。

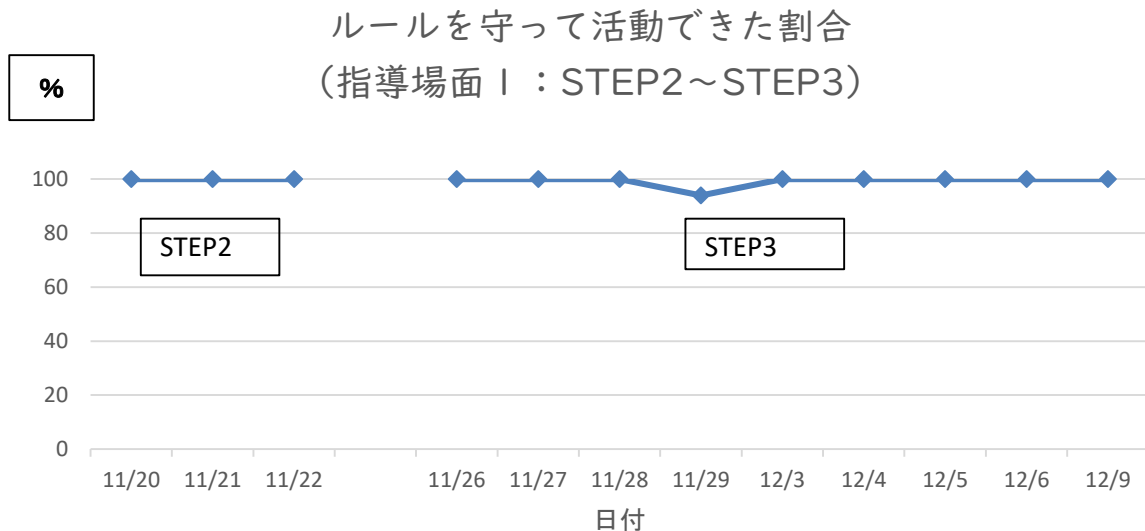


2. ベースラインを元に指導を開始し、不適切な発言がどのように変化したか。



・ STEP I → 10/25に達成

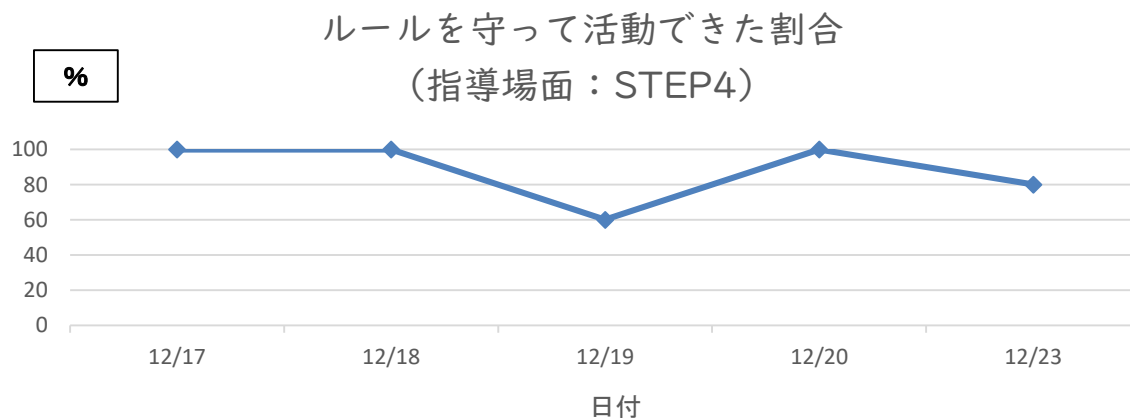
STEP 2 (約束を守って2つの活動をする), STEP 3 (約束を守って4つの活動をする)



・ STEP2 → 11/22に達成

・ STEP3 → 11/28に達成

STEP 4 (約束を守って5つの活動をする)



・ STEP 4 → 1/10に達成

指導の成果

- 日常生活の指導の時間は、ご褒美である iPad の動画視聴を励みに、約束を守ろうと努力する様子が見られた。活動の始めに約束表を一緒に確認することで、不適切な発言が大幅に減った。
- 指導内容や方法をステップアップしたり、授業内容を変えたりしても、ご褒美を励みに頑張り、不適切な発言は減った。
- 他の授業においても入学当初に比べ不適切な発言が減った。
- 回数を重ねるにつれ、自分で行動を調整できることが多くなった。
- 家庭の時間に「作業時間を増やしてiPad（ご褒美）の時間を増やしてほしい」など交渉ができるようになった。

ここが成功のポイント

- スモールステップで指導に取り組んだ。
- トークンエコノミーシステムを活用し，自分が頑張った結果，ご褒美が得られるという経験を積み重ねることができた。
- 記録や指導については，クラス担任だけでなく，学年の教員に共通理解を図り，協力体制を整えた。

今後の課題

- 不適切な発言を単に減らすために、代替する適切な行動を見つける（「〇〇先生、今お話ししてもいいですか？」「休憩してもいいですか？」など）。
- 指導時間や場面を拡げ、他の集団での活動（音楽、スポーツ、集会、給食、給食時等）の中で取り組む。
- 学習場面だけでなく余暇活動（ボードゲーム、しりとり、スポーツ、絵本等）において、友だちとの関わりの中でも実施する。
- 現在、ご褒美は iPad 視聴が中心であるため、他のご褒美の設定を行う（お気に入りの場所の写真、お気に入りの先生とのトークタイムなど）。